隆祐集

百番歌合

二十九番、蚊遣火

左、春日社百首

かやり火をふせやの床もたておきて
すずみにいづる庭のまつかぜ

島蛸

右、九条前内大臣家百首

島ひびくいらこがさきの波間にも
こたへぬ玉はほたるなりけり

三十番、蛭

左、春日社百首

秋ちかき袖しのうらに波わけて

かげもつつまずとぶほたるかな

行路夏草

右、御室御会

暮れかかる草の葉山をかぎりにて

秋のみちかき武蔵ののほら